



旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校
学校だより 9月号
平成26年9月1日 発行
発行責任者：野田 豊



地区祭と相撲大会

校長 野田 豊

「おはようございます！」元気な挨拶の声とともに、1学期の後半がスタートしました。健康的に日焼けした顔、ちょっぴり伸びた身長、たった40日余りの夏休みのですが、心身共にたくましさを増したように感じられます。たっぷり降り注ぐ夏の太陽は、子供たちの成長の栄養分になったようです。

さて、一昨日には、旭丘中学校を会場に、桜台地区祭が盛大に開催されました。朝方降っていた雨も上がり、昼過ぎには曇り空から青空ものぞくよい天気となりました。たこ焼き、焼きそば、トウモロコシ等の屋台が建ち並び、威勢のよい呼び込みの声にたくさんの人の行列ができていました。夏休み最後のイベントとして定着しているこの地区祭、夏の終わりを惜しむかのように子供も大人も大いに盛り上がり、家族や友人同士でそれぞれに楽しいひとときを過ごしていました。

この地区祭のもう一つの呼び物が地域の相友会（旭丘中学校相撲部出身者の会）が主催する「納涼子供相撲大会」です。幼稚園年中さんから小学校6年生までの豆力士が真剣勝負の取組をします。この大会が開催される2週間ほど前から、旭丘中学校の土俵で相撲教室を行い、子供たちに蹲踞の姿勢や立ち会いの仕方、基本技等の基礎を教えてくださいました。さて、本番の取組が始まると、豆力士とはいえ、蹲踞の姿勢も凛々しく、まわしを握りあつての真剣勝負の迫力ある姿に、自然と声援に力が入り、身を乗り出しての観戦となりました。勝負に勝った子供の誇らしげな表情もよし、惜しくも敗れて悔し泣きする表情もまたよし、子供たちにとって得がたい思い出の一コマとなったことでしょう。忘れられない思い出となった出来事がもう一つ。それは、大相撲の友綱部屋から、旭天鵬、旭大星、魁鵬の三人の力士の方々がこの相撲大会に参加してくださっていることです。三人の力士の皆さんは代わる代わるちびっ子達と相撲をとってくださいました。本物の一流の力士と直にふれあい、土俵の上で相撲がとれるという経験は、子供たちにとって一生の宝になったことでしょう。（実はこのとき、私もまわしを締め（人生初体験）、旭天鵬関と相撲をとらせていただきました。）

子供たちにこうした貴重な経験をさせてあげられるのも、相友会や桜台地区の委員の皆様をはじめ、地域で青少年の健全育成に取り組んでおられる多くの関係者の皆様のご尽力があつてのことと、深く敬意と感謝の意を表したいと思います。今後も、学校と家庭、地域とで子供たちの健やかな成長のために手を携えて進んでいくことを強く心に期した夏祭りでした。